

# えびはら直矢市政報告

発行人 海老原直矢

〒362-0026 上尾市原市北一丁目14番地9 TEL. 048-716-7323

E-mail. ebihara116@gmail.com <https://www.ebihara-naoya.com/>



2021年特別号  
2021.1.8



## 新型コロナと市民生活を考える 『コロナ禍の臨時財政運営方針』に対し提案

お世話になっております。緊急事態宣言が発出され、多くの方が不安とともに生活なさっているなかで、依然として皆さまの声を伺うことがなかなかできないことに本当に歯がゆく感じております。ぜひお感じになっていること、必要にお考えになる施策など、お聞かせいただければ幸いです。議会は閉会中ですが、市長への要望書提出や担当部署へのヒアリングなど、今こそこそ時機を逸することなく確実に行なっていくことと考える活動しております。皆さまの生活への不安を少しでも軽くできるよう努めて参りますので、引き続きご指導をお願いいたします。 海老原



動画での市政報告をご覧ください



新型コロナウイルス感染症の影響で、皆さまにお会いすることが難しいなかで市政課題についてご説明するため、動画での市政報告を作成しています。

### 〈パソコンの場合〉

検索ボックスに「<https://youtu.be/HGWNhUijtaE>」と入力し、検索結果で出た動画をご覧ください。

### 〈スマートフォンの場合〉

パソコンと同様もしくは右のQRコードをカメラアプリで読み込んでください。



## 市長に『コロナ禍の臨時財政運営方針』への要望書を提出

市から新型コロナの影響による財政状況の悪化を前提とした財政運営のあり方を示した『コロナ禍の臨時財政運営方針』に基づく今後の対応が示されたことを踏まえ、会派『政策フォーラム・市民の声あげお』として市長に対し要望書を提出しました(右)。

今回市が示した対応では、市職員の給料表の改定を中心とした人件費の削減、重度心身障害者福祉手当の一部廃止や敬老事業交付金のカットなどの事業見直し、イベントの開催見送りなどを行うとされています。

財政状況の改善は必要ですが、それは十分な検討のないままに事業を廃止したり、安易な人件費の削減を行う理由としてはいけません。市民の皆さんにご納得いただける予算となるよう、予算が示される3月定例会までの間、市に対して働きかけていきます。

### 提出した要望書の内容

#### ①人件費の削減は慎重に

人件費は慎重に取り扱い、削減ありきとせずそのほかの削減策を十分に検討した後に検討を行うこと。また、給料表の改定については生涯賃金に関わるため、時間をかけて職員の理解を得ること。

#### ②基本的に単年度の見直しとする

恒久的な事業の廃止を実施することは市民生活に重大な影響を及ぼす可能性があるため、見直し事業については基本的に単年度の見直しとすること。

#### ③見直し事業を早期に明示する

全ての見直し事業をその理由も含めて明らかにすること。特に福祉施策のうち対象となる市民が明示されている事業について、早期に見直しの可能性を当事者団体等に伝達するとともに、十分な協議を行い誠実な対応を行うこと。



# 一般質問の主な質問と答弁

今回の一般質問では、【①保育行政】保育所の登園自粛の際のルールの徹底、隠れ待機児童の問題、しらこぼと保育所の問題、【②子ども支援】子どもの精神不調のためのアセスメント、マイノリティの児童生徒への相談窓口の周知、【③福祉施策】市職員や教職員のメンタルヘルスとストレスチェックの課題、福祉総合窓口の設置、成年後見制度の中核機関の設置、【④自然環境保護】新広域ごみ処理施設の建設に伴う環境アセスメント、希少動植物の保護のための施策といった課題について質問をしました。



## 隠れ待機児童

保育の提供を受けていない児童に目を向けるべき

### 質問

上尾市の今年度のデータを見ると、待機児童は15名と昨年度と変わらないが、国が待機児童に含まなくて良いとした「隠れ待機児童」(保留児童)のうち、保育の提供を受けられていない児童は171名から198名へと、27名も増えている。このような児童についても待機児童と同様の対応が求められると考えるが見解は。

### 答弁

保留児童が増加している理由としては、女性の社会進出や核家族化等が進んでいること、新規申込者数の増加が考えられる。保留児童を減少させることも必要だが、まずは保育の優先度の高い児童が保育所を利用できるよう、待機児童解消の取り組みを進めていきたい。このことが、保留児童の減少にもつながると考えている。

## 子ども家庭総合支援拠点

国の示す期限ぎりぎりではなく早期の設置を

### 質問

子どもとその家庭及び妊産婦等を対象に専門的な相談対応や調査、訪問などによる継続的なソーシャルワーク業務までを行う機能を担う拠点である「子ども家庭総合支援拠点」を設置した場合の変化は。

### 答弁

子育て相談において、育児、家族関係、生活環境など複合的な問題を抱えている世帯もあることから、妊娠期から子どもの自立に至るまでの相談支援体制を集約することで、子育て世代への一体的な支援が行えるものと考えている。

### 質問

この拠点について、国は2022年度までの設置を義務付けているが上尾市における検討状況は。

### 答弁

すでに設置している子育てに関わる相談部門との連携を取りつつ、2022年度までの設置に向けて検討を行っている。

### 意見

上尾市は児童虐待の報告数が多いことなどを踏まえれば、期限ぎりぎりに設置を行うのではなく、早期の設置を行うべき。

## 市職員の精神不調

ストレスチェック以外の確認方法をとるべき

### 質問

市職員の精神不調による休職は、過去3年間で44名おり、早期の見極めが求められると考えるが、現状の見極め方法は。

### 答弁

毎年1度、例年8月中に、ストレスチェックによる検査を行っている。

### 意見

発達障害の職場へのカミングアウトについての調査結果では回答者の約7割が職場に障害について伝えておらず、キャリアへの不安を抱えているとされる。このような不安を抱えて精神的な特性について知られたくない人が少なくない割合いることを踏まえて、複数の手段を取るべき。

## 成年後見制度

市民後見人の養成を

### 質問

成年後見制度の利用促進にあたっては市民後見人の養成が重要となる。判断能力があるうちに自ら任意後見人を選定し、高検事務の内容を定めておくうえで、担い手となる可能性があるのが市民後見人だが、上尾市における養成の検討状況は。

### 答弁

市民後見人の研修、育成、活用の具体的な取り組み内容については、今後の上尾市成年後見制度利用促進審議会において検討を進めていく。

### 意見

早期に取り組みを進め、上尾市が先進自治体となるよう、施策を進めてほしい。

## 希少動植物保護

上尾市として保護方針が必要

### 質問

現状上尾市には希少生物保護の方針などは存在しているか。存在しない場合には立案していくべきであると考えているが、見解を伺いたい。

### 答弁

現在、本市における希少生物保護の方針はない。今後の方針等については、県の指針等を参考としていきたいと考えている。

### 質問

緑の保全が必要な地区について、市としてはどの区域であると認識しているか。

### 答弁

荒川や江川流域、原市沼周辺は、多様な自然が残されているエリアがあり、保全が望まれる地区と考えている。

## えびはら直矢プロフィール

昭和62年12月3日生まれ。  
●上智大学法学部卒  
●首都大学東京社会人類学教室修了。  
国連UNHCR協会職員などを経て、衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在子どもたちの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体など複数の団体の運営に携わっている。  
2017年に上尾市議会議員に初当選(現在2期目)。  
家族:妻、長男(5才)、長女(4才)、次男(2才)